

自主性を伸ばすアート 2011

香月 欣浩 *

Art that extends child's autonomy 2011

Yoshihiro Katsuki

本学の幼稚園でアートクラブという活動をおこなってきて3年目となる。1グループ20人で4回の活動をおこない、年間4グループ計16週の活動となる。今年度も昨年度同様、幼稚園でも家庭でも体験できないような表現内容を計画し実践してきた。

Key words: こどもの造形、自主性、自分で決める、こどもと環境、楽しんで伸びる、自由



はじめに

造形の指導で大切なことはたくさんあるが、今回は「物理的環境」と「人的環境」、「自由をどこまで許すのか」について述べ、その後アートクラブでの「活動内容の記録」について内容、目標、準備物、手順、発展やメモの項目に限定してまとめさせていただく。

<物理的環境>

物理的環境にも色々あるが、ここで取り上げるのは「場所」という物理的環境だ。本年度は都合上、短期大学の美術室でアートクラブの活動をおこなった。幼稚園の遊戯室でおこなっていた昨年度までは材料や道具を幼稚園から急きょお借りしていた。なぜなら子どもたちの突発的アイデアに対応すべく、材料や道具を臨機応変に調達して活動すすめていかねばならないからだ。だから幼稚園の先生方に多大なるご迷惑をおかけしてしまった。しかし今年度の活動場所は短大の美術室のため、

* 四條畷学園短期大学 保育学科

あらゆる道具や材料が充分まわりにあり、水場も教室内に設置されている。子どもにとってはパラダイスである。だから子どもたちの突発的な発想に対応でき、自由な発想を止めることなく、存分に造形表現の力を発揮してもらうことができたと思っている。また昨年までは遊戯室の床で活動をおこなっておりシートを敷いたその上で作業や制作を行っていた。しかし今年は美術室だから机の上で制作できる。「机上で制作をおこなう」という環境に変えるだけで、昨年と同じ活動内容でも子どもの表現行動と作品の出来上がりに変化が見られた。

例えば、絵の具を存分に使って大きな紙に描く活動「絵の具でアート」がある。昨年までは表現が波に乗り勢いづいてくると、床の上でやっていたため、足に絵の具を付けはじめ、ついには紙の上の紙の上で歩く、走る、転ぶ。そして紙が破れるという現象が頻繁に起きた。しかし、今年は机の上に紙を置いたため紙の上を歩く子はさすがにおらず、紙が破れることもなく紙上にできた作品も美しく完成した。足で描くという経験は失った代わりに、絵の具の色の変化をじっくり楽しむという経験を手に入れたことになる。

<人的環境>

大人や指導者はどうしても子どもたちに手を貸そうとする。教えようとする。そして子どもたちが挑戦していくチャンスを奪って行く。しかし遅くても、うまくできなくても子どもが自分の力で解決していくことが大切だ。時間内に終わらせようとするから、大人が手を出してしまう。それは大人の都合だ。時間内にできなかつたらそれはそれ。いい作品ができることは誰でも嬉しいことだが、完成させることだけが制作の喜びではない。うまくいくかどうか分からず、不安な気持ちで挑戦している時間さえも楽しいのである。子どもにとってのその時間は多くを感じ、考え、試し、成長することのできる、有意義なものだと考える。

子どもに対する大人の関わりは大きな人的環境のひとつであり、こどもの生き方に大きく影響を与えるものだと認識し、責任を持って行動せねばならない。

<自由をどこまで許すのか>

美術は自由だとはいえ「どこまで自由を許すのか？」は指導者の力量、考え方に大きく左右する。これによっては子どもたちの活動が広がることもあれば狭まることもある。作品のスケールも大きくなることもあれば小さくまとまってしまうこともある。

例えば絵の具を自由に混色する制作の時、子どもたちは赤色と青色を混ぜると紫色になることに感動し、更に黄色を混ぜたくなる。そしてまた色の変った絵の具を見てもっと色々な色を混ぜて試したくなるのだ。もしも絵の具と触れ合うという経験を重視し思い切り活動させたいなら、子どもたちにどんどん色混ぜをさせればいい。しかし色づくりを目的とした活動なら、ある程度でストップをかけなければならない。なぜなら色は混ぜ過ぎると暗い色になっていき、茶色や黒に近い色になるのだ。

このように制作の目的によって子どもの活動を軌道修正していく必要あり、どこまで許すか、どこまで指導するか、子どもたちにどのような方向に進んで欲しいのかということをはっきりさせておくことは大切である。

内容

1. おしゃれなお魚
2. 新聞紙に絵を描こう
3. 新聞紙をつなげよう
4. 新聞紙で生き物を作ろう
5. 絵の具でアート
6. 手作り色紙で絵本を作ろう
7. ランプシェードでキャンドルナイト

1. おしゃれなお魚

内容) 色画用紙の切れ端を使って自由に海の生き物を作り、水色の模造紙に描いた大きな魚の上から作った海の生き物を貼り、おしゃれに飾っていく。(スイミーみたいに)
目標) 切れ端を組み合わせることで生まれる形から自由な発想で生き物を作る。実際にはいない生き物もどんどん作る

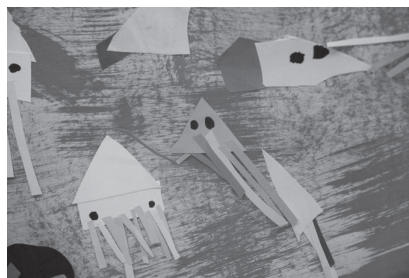
準備物) 色画用紙の切れ端 (いろんな形)・スティックのり・はさみ・ペン・水色の模造紙 (台紙)

手順) 台紙に描いていた大きな魚を見せ、今日の活動を伝える・小さな魚、海の生き物の見本を見せる・1人1個のトレーを配り、切れ端を取りに行かせる・思い思いの生き物を作る・できた生き物は各自が大きな魚の描かれた模造紙に貼っていく・何匹も作っていき1匹はおみやげとして家に持ち帰るようにする

発展) 海の生き物のほかに、空や森や草原の生き物を想像させるのもおもしろい



色画用紙の切れ端



海の生き物



大きな魚の体に飾っていく

2. 新聞紙に絵を描こう

内容) 新聞紙の紙面に絵の具で絵を描く

目標) 絵は画用紙だけでなく新聞紙にも描けることを知り、印刷された文字や写真も効果的に利用する

準備物) 新聞紙・筆(中)・紙コップ(絵の具入れ)・マジック(記名用)・ブルーシート(乾燥場所)・洗濯のり絵の具※(注1){ポスターカラー(赤、青、黄、黒、白)+洗

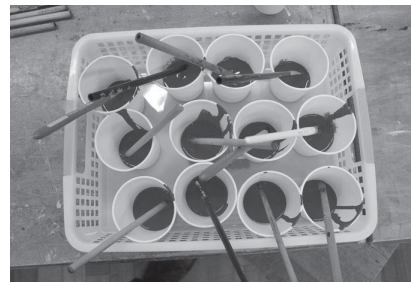
濯のり(絵の具増量用)}・セロハンテープ(新聞紙固定用)・汚れてもいい服・ぞうきん

手順) 見本を見せる・動物や魚、鳥などの写真を見せる・絵の具は5色しかないので実物の色にとらわれないように伝える・新聞紙を机にセロハンテープで固定する・紙コップにあらかじめ入れてある絵の具と筆セットを各自1個ずつ取って描く・色交換の時は紙コップと筆をセットで交換する・できたら新聞紙に記名し隣の部屋のブルーシートの上に置き次の作品を描く

発展) 好きな形に切ってから描くと、材質だけでなく形にもこだわらなくなる。また新聞紙以外の材料も組み合わせるなど、決まりのないことを徹底して気付かせたい

※(注1) 洗濯のり絵の具

<絵の具：洗濯のり=1：3>洗濯のりと絵の具を混ぜることで粘度を保ち増量でき、乾燥するとキラキラ光る



洗濯のり絵の具



新聞紙に描く



床に並べた作品群

3. 新聞紙をつなげよう

内 容) 先週描いた新聞紙の絵をのりでつなげていき校舎の吹き抜け部分(5階から)吊るす(20m)。

目 標) 小さな紙もつなぎ合わせていけば大きくなることを知る・展示方法で見え方が違うことを体感する

準備物) 水のみ・ドライヤー(乾燥用)・幅5センチのセロハンテープ(補強、吊るす時用)

手 順) 表新聞紙の上部にのりを付け、2人組で協力して新聞紙をつないでいく・3枚つながったら隣の部屋に持って行き他のグループのものを更につないでいく・のりの濁きを早めるためにドライヤーを使用する・20mの長さにつなげた新聞紙の裏に補強のため上から下までセロハンテープを貼る・吹き抜け部分へ持って行き作品を吊るす・1階に下りて鑑賞する

発 展) 運動場に広げておき屋上から鑑賞する



協力して新聞紙をつなぐ



つないだ新聞紙を床に並べる



吹き抜け部分に5階から吊るす

4. 新聞紙で生き物を作ろう

内 容) 棒状に丸めた新聞紙を使って、昆虫や動物を作る

目 標) 身近な素材を使って、立体作品を作る工夫をする

準備物) はさみ・セロテープ(幅1.5cm、5cm)・ペン・針金・ペンチ

手 順) 新聞紙を4枚重、棒状に丸めたものを5本作る・中心に針金を入れる。セロハンテープで固定する・この曲がる棒状新聞紙を使って昆虫や動物、人を作っていく・接着はセロハンテープをたくさん使う。

発 展) 完成した作品を天井から吊り糸で吊ると、飛んでいるみたいでおもしろい

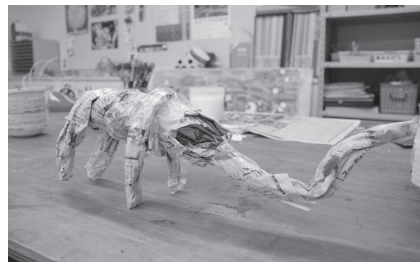
ポイント) 子どもたちは作りたいものを形にする段階で手が止まるので手助けする・接着のためのセロハンテープも強度があるので幅5cmのものが力を発揮する



針金に新聞紙を巻いて芯作り



芯を曲げて、くっつけて



完成したゾウ

5. 絵の具でアート

内 容) 大きな紙の上で絵の具を手で伸ばし、自分たちだけのいろ紙を作る

目 標) 絵の具を手で伸ばす感触や、描き混色する楽しさや不思議さを味わう・道具の持つ表現力を知る。

準備物) 縦8m×横1.1mのロール模造紙・洗濯のり絵の具※(注1){ポスターカラー(赤、青、黄、黒、白、茶)・洗濯のり(絵の具増量用)}・※(注2)ガラクタを含む色々な道具

手 順) 机に広げて端をセロハンテープで固定された模造紙に指導者が多めに絵の具を落としていく・好きな色のあるテーブルに移動する・指一本だけで絵の具に触れる・使える指の本数を増やしていき絵の具をどんどん広げていく・両手を使い絵の具の感触を存分に味わう・隣の色を混ぜて新色をつくる・時間を見計らって※(注2)を使って絵の具に親しむ。(注2)歯ブラシ、スポンジ、割りばし、フォーク、ビー玉、キャスター・軍手・うちわ・カップ・プチプチ(緩衝材)・コルク栓・蓋・ロール芯

発 展) できた色をトイレットペーパー芯やカップなど形あるものに塗り、作品とする

ポイント) 作品の出来も大切だが、行為を楽しむことも大切なので、できるだけ自由度をあげる

注 意) 絵の具を顔や体につける子がいるので、シャワーのできる暑い季節にする方がよい

※(注1)洗濯のり絵の具

〈絵の具：洗濯のり＝1：3〉洗濯のりと絵の具を混ぜることで粘度を保ち増量でき、乾燥するとキラキラ光る



絵の具を指でのばして混色する



色々な道具を使って描いてみる



道具の輪からのぞく女の子

6. 手作りいろ紙で絵本を作ろう

内 容) 前回作ったいろ紙を何かに見立て、自分だけの絵本を作っていく

目 標) 手作りいろ紙のムラから想像し、見立て、物語を作ることを楽しむ

準備物) 1人B4コピー用紙10枚・表紙用B4カラーコピー紙2枚・ホッチキス・スティックのり・はさみ・鉛筆

手 順) いろ紙を子どもたちに見せ、何に見えるか質問し、色々なものに見えることを伝える・実際に指導者がはさみで切って見せる・そうやって作った絵本を見せ考えさせる・言葉かけをしながら見て回る・全然想像できない子にはアドバイスを

発 展) 絵巻物や紙芝居をグループで作るのも面白い

ポイント) 手作りいろ紙の色のバリエーションが多い方が想像の幅も広がる・描くのも認めるが描いてばかりの子には、いろ紙も使うように助言する



手作り絵本の見本を見る



選んだいろ紙を何かに見立てて切る



絵本の中に恐竜が誕生した

7. ランプシェードでキャンドルナイト

内 容) 紙袋の側面に絵を描き簡単なランプシェードを作る

目 標) 炎の明かりに浮かび上がる絵の美しさを楽しむ

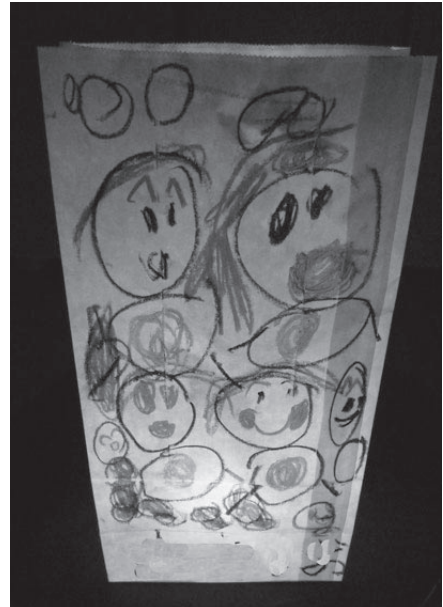
準備物) 白い紙袋・油性マジック・新聞紙・直径2cmのろうそく・透明のガラス瓶(ジャム用)

手 順) 部屋を暗くし見本のランプシェードに明かりを灯す・新聞紙を引き、その上で紙袋に油性ペンでデザインしていく・記名して提出する・キャンドルナイトのイベント当日にろうそくと瓶のセットを紙袋の中にセッティングし点火する

ポイント) 火の取り扱いには十分に注意する。ろうそくは瓶の高さよりも低く切断し瓶に固定し点火すること。紙袋の4面に描けることを伝える



紙袋にマジックでデザイン



中にろうそくを灯したところ



階段に並べて展示

おわりに

子どもたちがどんなことを感じ、考え、行動をするか？

それは、まわりにいる大人が与える環境に大きく左右される。

唯一無二の絶対的な環境などあり得ないが、子どもたちの今と未来をよく考えた上で、まわりにいる私たち大人が環境を整えることが必要だ。

その答えは人の数だけあり正解はひとつではない。また環境は物理的なものだけでない。まわりの大人が何を言うか、どう接するかということも環境のひとつである。環境のひとつである私たち大人が、人としてどうあるべきか常に考え行動することはとても大切なことだと考えている。

(写真撮影：渡邊悠太)

(2012. 3. 5 受稿, 2012. 3. 7 受理)